

九州メンテ
ラメンテ
フラメン
会議九
イン国

包括的民間委託を展望

新技術導入の課題議論



インフラメンテナンズ国民
会議九州フォーラム(リーダ
ー・日野伸一九大名誉教授)
は12日、福岡市の福岡国際会

議場で第8回「ピッチイベント」を開いた。写真。「インフラメンテナンズの新たなステージの取組みと未来への継承をテーマに、講演やパネルディスカッションを通して、自治体が抱える課題や関係団体との連携などについて意見交換した。会場約160人、オンライン約280人が参加した。

ピッチイベントは、第1部で、事務局の野上和彦氏が九州フォーラムの活動を報告したほか、国土交通省総合政策局の金井仁志公共事業企画調

整課インフラ情報・環境企画調整官がインフラメンテナンズにおける包括的民間委託の現状と展望を、同省道路局の和田賢哉国道・技術課道路メ

ンテナンズ企画室長が橋梁定期点検などをテーマに講演した。

第2部は、日本ピーエスの福島邦治スマートインフラサービス推進室長をファシリテーターに、金井インフラ情報

・環境企画調整官、九州地方整備局の猪狩名人九州道路メ

ンテナンズセンター長、長崎市中心総合事務所地域整備課の森尾宣紀氏、杵築市上下水道課の平田勝宏主幹、イン

フロニア・ホールディングス
の岐部一誠社長、オービットの上田祐一設計第2部長を交え、「維持管理の未来像と自治体の悩み 包括的民間委託と新技術」をテーマにパネルディスカッションした。

維持管理の民間委託に伴う課題について、森尾氏は「サービスの質の低下や、職員が現場に行かないことによる弊害が懸念される」。平田氏は「事業規模が小さく民間が利益を享受しにくく魅力がないのではないかと語った。

また、新技術の導入に伴う課題について、森尾氏は長崎県内13市8町のアンケート調査結果を示し、「管理橋梁の80%が橋長15m未満の小規模橋梁のため、コストなどの観点から新技術の導入は難しい」。

平田氏は「市単独での導入は難しく、広域的に新技術を導入できるプラットフォームが必要ではないか」とした。

一方、岐部氏は「問題は予算の規模ではなく、仕様発注でコストを下げたり、新技術を導入したりするインセンティブ(動機付け)がないこと」だとし、性能発注にすればするほどコストを下げ、手間を減らせるため、「どれだけ性能発注を徹底できるかが重要」と語った。

全体のまとめでは、DX(デジタルトランスフォーメーション)を進めるためには「立場を超えた連携と官民連携の取り組み事例の水平展開が必要」と総括した。